マーケットデイリー

SMAM

（No.1,976）〈マーケットレポートNo.3,839〉

情報提供資料

2014年10月24日

今日のトピック　トルコの金融政策（2014年10月）

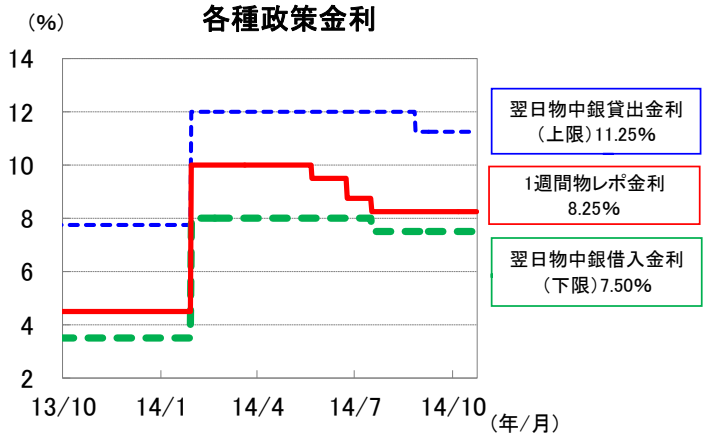
2会合連続で各種政策金利を据え置き

ポイント1　政策金利水準の正常化を今回も見送り

大方の予想通りの決定

■トルコ中央銀行（以下、中銀）は23日、1週間物レポ金利を8.25%に、金利誘導レンジの上限金利を11.25%に、下限金利を7.50%に、いずれも据え置くことを決定しました。

■中銀は今年1月、トルコリラの安定化などを狙い、臨時の措置として各種政策金利を大幅に引き上げました。5月以降は、各種政策金利水準の正常化を進めています。しかし、足元のトルコリラ安や物価高などから、市場では9月の会合に続き各種政策金利の据え置きが予想されていました。

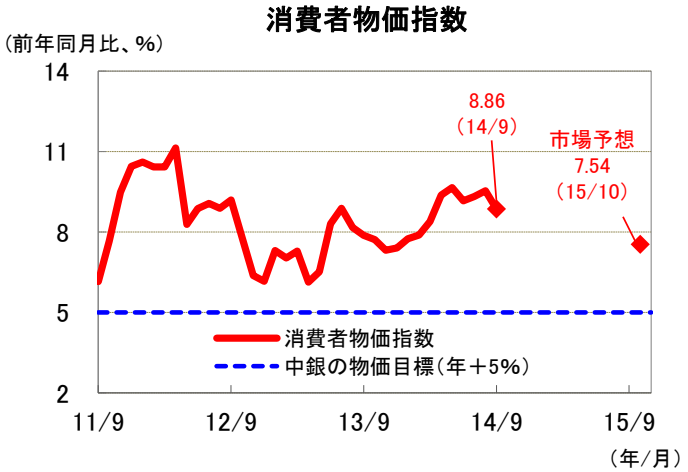


ポイント2　引き締めスタンスを当面維持

物価見通し改善の遅れを懸念

■9月の消費者物価指数は前年同月比＋8.86%と前月からやや低下したものの、中銀の物価目標（年＋5%）を大きく上回っています。また、1年後の市場予想は同＋7%台半ばと下げ渋る見込みです。

■中銀は、足元の原油価格の低下が来年以降の物価上昇を抑えるとの期待を示しました。一方、中銀は引き続き食品価格の上昇などによる物価見通し改善の遅れを懸念しています。中銀は、物価見通しが顕著に改善するまで、現行の金融引き締めスタンスを続ける考えです。



（注）各種政策金利は2013年10月1日～2014年10月23日。
消費者物価指数は2011年9月～2014年9月。
市場予想は、トルコ中央銀行が10月17日に発表した調査結果。
（出所）Bloomberg L.P.、トルコ中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開　政策金利水準の正常化再開は、物価見通しの改善後の見込み

■景気が減速傾向にあることから、中銀は物価見通しが改善する場合には、各種政策金利水準の正常化を再開する見込みです。ただし、足元のリラ安や物価高から、中銀は引き続き利下げには慎重にならざるを得ないと見られます。

■米国の利上げ時期に関する観測や、中東情勢の混乱などから、リラは米ドルに対し上値の重い展開が続くと思われます。ただし対円では、日銀の追加金融緩和観測などもあり、リラは底堅い動きになりそうです。

ここもチェック!
2014年09月26日【デイリー　No.1,959】トルコの金融政策（2014年9月）
2014年08月29日【キーワード No.1,403】トルコの新大統領・新首相（トルコ）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。